

# 〈数詞＋動量詞“次”〉が状語になる 場合についての一考察

金 谷 順 子

0.

動作の回数を表す動量詞は、一般には動量補語として動詞の後に置かれる。

我去过杭州两次。

(私は杭州に2度行ったことがある。)

这个问题我们讨论了三次。

(この問題については我々は3度話し合った。)

しかし動詞の前に置かれて状語となることもある。

他们一次调查了两个人。

(彼らは1回に2人を調査した。)

他们一次就调查了两个人。

(彼らはいっぺんに2人も調査した。)

我两次去你家，你都不在。

(私は2回君の家に行ったが、君はいつも不在だ。)

本稿では状語として現れる動量詞について、主に形式の面からの分類に基づき、その意味、特徴について考察を試みるものである。<sup>(1)</sup>

1.

〈数詞＋“次”〉からなる状語は次のいくつかのタイプに帰納されるであろう。以下そのタイプ分けに従って論を進めていくことにする。

## 1.1 Aタイプ

(1) 我一次编了十几页稿子。<sup>(2)</sup>

(私は1回に10数ページの原稿を編集した。)

(2) 她一次吃了两个馒头。

(彼女は1回に2つのマントウを食べた。)

(3) 厨师一次用完了十个鸡蛋。

(コックは1回に10個のタマゴを使いきった。)

(4) 他一次把这些书全搬回来了。

(彼は1回にこれらの本を運んで戻った。)

Aタイプは、述語動詞で表されている行為について、前方にきている回数で、目的語で示す数量の事柄を行ったことを表す。通常前方にくる数詞は“一”を用い、その場合には、目的語の数量フレーズは、「1回につき、1回ごと」の平均分配の数量を表している。Aタイプは副詞を伴わない。

数詞が“一”の場合は、前後の文脈から明らかであれば動詞を省くことも可能である。

(1) 我一次十几页稿子。

(2) 她一次两个馒头。

平均分配という点で、通常、数詞は“一”をとるが<sup>(3)</sup>、それ以外の数詞をとる場合もありえる。<sup>(4)</sup>

(5) 她两次吃了五个馒头。

(彼女は2回で5つのマントウを食べた。)

またAタイプは“几”と結びにくい、それはこのタイプが主に数詞“一”をとり、「1回の動作」における仕事量を表明するという点から説明づけられるだろう。

(6) \*我几次编了二十页稿子。

(私は数回で20ページの原稿を編集した。)

(7) \*厨师几次用完了一百个鸡蛋。

(コックは数回で100個のタマゴを使いきった。)

(8) \*他几次把五十本书全搬回来了。

(彼は数回で50冊の本を運んで戻った。)

## 1.2 Bタイプ

(9) 我一次就编了十几页稿子。

(私はいっぺんに10数ページもの原稿を編集した。)

(10) 学校一次就处罚了四个学生。

(学校はいっぺんに4人もの学生を処罰した。)

(11) 我们系一次就毕业了五个博士生。

(我々の学部ではいっぺんに5人もの博士課程修了者を卒業させた。)

(12) 厨师一次就用完了三十个鸡蛋。

(コックはいっぺんに30個ものタマゴを使いきった。)

Bタイプは、形式的にはAタイプが副詞と共に起した場合である。

例えば、副詞“就”と共に起することで、前方の“一次”に対し、目的話の数量が通常より多いことを表し、カウントとしての「1回」というよりは「いっぺんに～した、一度に～した」という意味が強くなる。

副詞“才”、“只”との共起では、“一次”に対し目的語の数量が少ないことを表す。

(13) 他们一次才调查了两个人。

(彼らはいっぺんに2人しか調査できなかった。)

(14) 他一次只插完半亩地。

(彼はいっぺんに0.5畝(ムー)しか植えられなかった。)

その他に、例えば、

(15) 青青阿姐，你一次花这么多钱，怕不怕王大哥他…。〈短〉p.231<sup>(6)</sup>

(青青ねえさん、あんた、いっぺんにこんなにくさんの金を使っちゃって、王にいさんが恐くないのかい…。)

例(15)の“这么”のように、話し手の気持ちを含む言葉があると、副詞を伴っていなくても、やはり「いっぺんに～した」ことを表す。

このタイプも“一”以外の数詞と共に起することはありえる。しかし数詞が“一”の時と比べてその使用頻度は落ちる。<sup>(7)</sup>

(16) 我两次就编了三十几页。<sup>(8)</sup>

(私はたった2回で30数ページも編集した。)

(17) 他们三次就调查了十个人。<sup>(9)</sup>

(彼らはたった3回で10人も調査した。)

(18) 我们导师三次只招了两个学生。

(我々の指導教官は3回に2人の学生しか募集しなかった。)

これらの文が成立するには、話し手と聞き手がなんらかの共通の話題や認識を持ち、それを基準とした上で判断がなされていることや、話し手自身の経験上の基準や常識が前提になると思われる。

このタイプも、Aタイプと同様に“几”とは結びにくい。

(19) ??学校几次就处罚了二十个学生。<sup>(10)</sup>

(学校はたった数回で20人の学生を処罰した。)

(20) ??厨师几次就用完了一百个鸡蛋。

(コックはたった数回で100個のタマゴを使いきった。)

(21) ??他们几次就除干净了十平方米的杂草。

(彼らはたった数回で10平方メートル分の雑草をきれいに取り除いた。)

### 1.3 Cタイプ

Cタイプは、ある動作が実現するのにかかった回数を表す。このタイプは、一般に副詞との共起を必要とする。また、目的語に数量フレーズをとらず、動詞は多く結果補語を伴う。<sup>(1)</sup>

(22) ?他一次学会了骑自行车。<sup>(2)</sup>

(22') 他一次就学会了骑自行车。

(彼はたった1回で自転車に乗れるようになった。)

(23) ?她做的菜我两次吃腻了。

(23') 她做的菜我两次就吃腻了。

(彼女の作った料理は私はたった2回で食べ飽きてしまった。)

(24) ?他们几次除干净了杂草。

(24') 他们几次就除干净了杂草。

(彼らはたった数回で雑草をきれいに取り除いた。)

(24'') 他们几次才除干净杂草。

(彼らは数回かかってやっと雑草をきれいに取り除いた。)

これらの文を成立可能にする背景には、先ほどBタイプのところでも触れたように、話し手自身が経験上備えているある基準や常識、或いは、話し手と聞き手にとって共通の話題が存在し、その尺度で判断していることが前提となる。例(22')の場合は、話し手には1回では自転車に乗れるようにはならないという常識があり、その尺度を用いて判断すると、彼が1回で自転車に乗れるようになったことは驚くべきこととしてとらえられ、副詞を用いてそれが表明されることになる。例(23')でも、話し手には、みんなが、彼女の作った料理はいくら食べても食べ飽きないと言ったことを聞いていたため、そういうものだという認識があったというような状況が想定され、その状況で、自分はたった2回食べただけでもう飽きてしまったということを“就”で示している。

以上に述べたように、Cタイプは一般に副詞との共起を必要とするが、インフォーマントによっては、副詞を伴わない以下のような例文も成立可能になるとした。

(25) 计划一次订好了。

(計画は1回でとり決まった。)

(26) 他一次学会了这首歌。

(彼は1回でこの歌を歌えるようになった。)

(27) 她一次还清了债。

(彼女は1回で借金を返済した。)

その理由として、例(26)では、計画はいつも1回で決まっているという、また例(27)では、彼女はいつも1回で借金を返済しているという前提のもとで、今回もそうだったということを述べ、話し手が経験上持つ予測と合致することが考えられる。<sup>43</sup> また、例(28)では、歌は普通1回で覚えられるものだという話し手の持つ常識と合致しているといえる。<sup>44</sup> このような話し手の予測、常識との一致が副詞との共起を必要としないと思われる。<sup>45</sup> 従って、発生した事柄と話し手の常識、予測とが一致した場合に限り、副詞との共起を必要としないのであり、一般には、Cタイプの成立に副詞が関与しているといえる。

(28) 计划一次就订好了。

(計画はいっぺんでとり決まった。)

もし、例(28)が副詞を伴った場合には、いつもは数回かかるのに今回は1回で決まった、つまり話し手の経験上からの予測とのズレや、或いは、1回で決まるということなど話し手自身全く想像しておらず、予期せぬ出来事が発生したことを意味している。

#### 1.4

以上をふまえ、ここでもう一度A、B、C各タイプの境界線をはっきりさせるために、次の例文についてそれぞれの意味を確認しておく。

<Aタイプ>

(28) 空调的温度，我一次调了两度。

(クーラーの温度は、私は1回に2度を調節した。)

(28)' 空调的温度，我一次调高了两度。

(クーラーの温度は、私は1回に2度を調節して高くした。)

・「1回につき」の量を述べる。

<Bタイプ>

(29) 空调的温度，我一次就调了两度。

(クーラーの温度は、私はいっぺんに2度も調節した。)

(29)' 空调的温度，我一次就调高了两度。

(クーラーの温度は、私はいっぺんに2度も調節して高くした。)

- ・話し手と聞き手が持つ共通の話題、認識が基準となり、それをを用いての判断、或いは自分が経験上備え持つ基準、常識などの比較などを含意。

#### <Cタイプ>

㉚) 那个商店一次就把空调的价钱减了下来。

(あの店では、クーラーの値段をいっぺんに値下げした。)

- ・Bタイプと同じ。

㉛) 空调的温度，他一次调高了。

(クーラーの温度は、彼は1回で高く調節した。)

- ・話し手が経験上持つ予測、或いは常識などとの一致を含意する。

また、形式上の違いは以下のようにまとめられる。

#### <Aタイプ>

副詞を伴わない。目的語に数量フレーズをとる。動詞に補語（多くは結果補語）がつく場合もある。数詞は普通“一”で、“几”はとらない。

#### <Bタイプ>

副詞を伴う。目的語に数量フレーズをとる。動詞に補語（多くは結果補語）がつく場合もある。数詞は普通“一”で、“几”はとらない。

#### <Cタイプ>

一般に、副詞との共起を必要とする。多く動詞に結果補語を伴い、数詞は“一”、“两…”、“几”が可能。

Cタイプ中、副詞との共起を必要としないものがあるが、その場合、数詞は普通“一”である。

## 2.

以上に挙げたタイプの他に、副詞を必要とせず、目的語が数量フレーズをとらず、動詞に必ずしも補語を伴わないタイプがある。これをDタイプとする。

### 2.1

杉村(1994)<sup>69</sup>では、

㉜) 我几次约小李去看电影儿，她老说没空儿。

(僕は何度も李さんを映画を見に行こうと誘ったが、彼女の返事はいつもヒマがないである。)

のような例文を挙げて、「回数」を強調しようとして前に“几次”を移したもの

で、言いきりにならず後にまだ文が続くなどの条件が必要だ」としているが、詳しい説明はされていない。

また刘 (1983)<sup>40</sup>にも、

㉔ 为了保障人民群众的身体健康，解放后药品几次降价。

(人々の健康を保障するために、解放後薬品は数度にわたって値下げされた。)

という例が挙げられているが、やはり詳しい説明はない。以下このタイプについて考察してみる。

## 2.2

動量詞が補語になる場合と比較して、状語になる場合の成立背景について考えてみると、このタイプでは、杉村 (1994) で指摘されるように、後ろに文をとることがその条件となっていることが考えられる。以下の会話例を用いて説明してみよう。

A. 你去过北京吗？

B. 去过。

A. 去过几次？

B. 去过六次。

A. 我还没去过北京呢，听说全聚德的北京烤鸭很好吃，你肯定吃过好几次了吧。

B. 没有，我六次去，可都是工作，没有时间去吃北京烤鸭。

回数を述べるだけなら“去过六次”（補語）がその役目を担っている。“六次去”（状語）はただ回数を述べるためだけに用いられているのではないことがわかる。“去过六次”はこれ一文でも成立するが、“我六次去”はこのままでは成立しがたく後ろに文を続ける必要がある。

次に挙げる用例は、すべてこのような成立背景を持つと思われる。

㉕ ?我四次抄了小道。<sup>41</sup>

㉕' 我四次抄了小道，节约了好多时间。

(私は4回近道をして、多くの時間を節約した。)

㉖ ?他小时候两次出了痱子。

㉖' 他小时候两次出了痱子，现在脸上还留着痕迹。

(彼は小さい頃に2回あせもが出て、今でも顔にその痕が残っている。)

㉗ ?这个人过去几次骗过我。

㉗' 这个人过去几次骗过我，所以我不相信他。

(この人は以前に何回か私をだましたことがあるので、私は彼を信用しない。)

(37) ? 领导三次找老王。

(37)' 领导三次找老王，劝他退休。

(指導者は3回王さんを訪ねて、彼に退職をすすめた。)

(38) ? 采购员几次打来电话。

(38)' 采购员几次打来电话，问起这件事。

(仕入係は何回か電話をかけてきて、このことを尋ねた。)

(39) ? 我三次点了眼药。

(39)' 我三次点了眼药，可还疼。

(私は3回目薬をさしたが、まだ痛い。)

(40) ? 我五次去你家。

(40)' 我五次去你家，你都不在，干么去了？

(私は5回君の家に行ったが、君はいつもいない、いったいどこに行っていたの？)

(41) ? 他们几次扯到了住房的事。

(41)' 他们几次扯到了住房的事，都感到没法解决。

(彼らは何回かほかの話題のついでに住居のことを話し合っていたが、皆解決方法はないと感じていた。)

(42) ? 这个少数民族几次抵抗过外族的入侵。

(42)' 这个少数民族几次抵抗过外族的入侵，可还是被灭了。

(この少数民族は何回か他民族の侵入に抵抗したことがあったが、やはり滅ぼされてしまった。)

(43) ? 我几次跟他一起去北京。

(43)' 我几次跟他一起去北京，都不顺。

(私は何回か彼と一緒に北京に行ったが、いつも順調にいかなかった)

以上のように、このタイプの文を成立させるためには、回数に関する何らかの内容(因果関係、補足説明、逆接)<sup>49</sup>を表す文を後ろにつけ加える必要がある。<sup>49</sup>

なぜこのような後続文が必要になるのだろうか。動作の回数を表すだけなら、補語として動量詞を用いればよいはずであり、状語として回数を動詞の前に出すには何らかの理由を必要としなければならない。

### 2.3

Dタイプで、なぜ後続文が必要になるのかということと合わせ、ここで、動量詞が状語になる場合の成立背景について考えてみる。

まず、Bタイプ、Cタイプとも、文中に副詞を伴うことでその成立条件を満たしている。副詞を含むことにより、前方に出された数詞と述語で言及されている事柄との関係に対して、話し手の何らかの判断、認定が示されることになる。

またDタイプは、一般に後ろに文を続けることで成立することが指摘できるが、その理由を考えてみると、例えば、2.2に挙げた会話の中で、

B. 没有，我六次去，可都是工作，没有时间去吃北京烤鸭。

“六次”を状語の位置に突出させているのは、ただ回数を述べるためでないことは既に触れたが、数詞を動詞の前方に取り上げること自体、そこに話し手の何らかの判断、認定が示されていると考えられる。その判断、認定がなされるのは、後続文（補足、追加説明など）で説明されている事柄に対してであるといえ、そのためDタイプでは後続文が必要になると思われる。

B、C、Dタイプで考える限り、動量詞が状語になる場合には、話し手のなんらかの判断、認定が示されることが前提になるといえる。

ところでAタイプは副詞を必要としていなかった。これは次のように考えられる。Aタイプは「1回につき、1回ごと」の量、つまり平均分配を表している。平均分配は、話し手の主観的な判断は含まないのであるから、副詞を必要としないのも当然であろう。また、Cタイプの一部に副詞を必要としない場合があったが、これも先に述べた通り、話し手の常識、経験上からの予測などとの一致があって初めて成立可能となるのであり、そこに、副詞は関与しないからである。

### 2.4

Dタイプの場合には、数詞が“一”では成立しないという特徴がある。

他のA、B、Cタイプには“一次”が現れているが、Aタイプの“一次”は、カウントではあるが平均分配としての「1回（ごとに）」を、Bタイプ、Cタイプの“一次”は、主に副詞とともに用いられ「いっぺんに、一度に」を意味している。Dタイプに用いられている数詞は、純粹にカウントとしての回数を表しているといえ、その点で、A、B、Cタイプとは異なると考えられる。カウントとしてただ「1回」を表すのに、“一次”を用いて、わざわざとりたて

て言う必要はないだろう。例えば、下記の例文でも、

\*他小时候一次出了痱子，现在脸上还留着痕迹。

(?彼は小さい頃に1回あせもが出て、今でも顔にその痕が残っている。)

「彼は小さい頃にあせもが出て、…」と言えば、話し手も聞き手も普通それを「1回」のこととして受け取るため、わざわざ「1回」という必要はない。このような前提から、「2回」以上の回数は、ただカウントとしての回数であっても、表明される必要があり、Dタイプにはその原則が働いていると考えられる。

## 2.5

そのほか、後続文は逆接的な意味を持ちやすいとこのことをインフォマンから指摘された。回数を動詞の前に取り上げること自体、発生した事柄が、話者にとって好ましい、好ましくないに関係なく、通常ではあまりありえない、自分の経験上からの予測と現実とのギャップを感じた場合であることを表しているので、逆接的につながりやすくなるのだろう。

(32) 我几次约小李去看电影儿，她老说没空儿。

(33) ~，解放后药品几次降价，可老百姓还是不满意。

(~、解放後薬品は数度にわたって値下げされたが、庶民はまだ不満である。)

(44) 他几次要求她答复，她都没有抬头，…。〈全〉p.119 (4)

(彼は何回か彼女に返答するよう求めたが、彼女は頭をもたげることもせず…。)

(45) 在北京躺在病床上时，几次想自杀。但是听到守候在身旁的姐姐的声音，又不忍那样做。〈全〉p.86 (4)

(北京で病院のベットに横たわっていた時、何回か自殺を考えた。しかしそばで看護する姉の声を聞くと、そうすることもできなかった。)

(46) 他的表情是尴尬的，尴尬得有些可怜。几次吞吞吐吐，欲言又止。〈全〉p.175 (4)

(彼の表情は気まずげで、それが少しかわいそうだった。何回か口ごもったが、言おうとしてやめた。)

## 3.

以上、〈数詞+動量詞〉が状語になる場合について、形式的な面から、4タイプに分類を行った。4タイプはそれぞれに無関係ではないと思われるが、A

タイプのように副詞も後続文もとらず、事柄の客観的説明を示し、動量詞が、状語の位置にしか現れないものを例外的とするならば、一般に、動量詞が状語になる場合には、B、C、Dタイプのように、話し手の主観的判断を帯びる形式をとるという共通の条件を導くことができる。

#### 注

- (1) 本稿で扱う動量詞は専用動量詞中の“次”に限定する。
- (2) 用例は〈短〉〈全〉以外は作例であるが、すべてインフォーマントによるチェックを受けた。
- (3) “一”を単位にする例としては、

多少钱一个？

(1ついくらですか？)

があるが、後ろにきている点で本稿の場合とは異なる。ここではそれを指摘するにとどめる。

- (4) 例文(5)のように“一”以外の数詞をとる場合もありえる。しかしコンテキストが必要である。また曖昧性も残る。例えば、

她两次吃了五个馒头。

(彼女は2回で5つのマントウを食べた。)

という場合、2回にわたって5つのマントウを食べたことを意味しているのであり、1回にいくつ食べたかは明確に示していない。1回に2.5個づつ食べたともとれるし、1回は3個、もう1回は2個、或いはまた、1回は4個、もう1回は1個食べたとも解釈できる。

- (5) \*マークは非文であることを表す。以下同じ。
- (6) 〈短〉：《中国文学作品年编1981短篇小说选》1984。中国社会科学出版社
- (7) あくまでもコンテキストが必要である。“一”の場合と比べると使用頻度がかなり落ちるが、そこには経済性の原理が働くからではないか。つまり普通は1回でどうしたかを言えばよいのであって、それを「2、3…回で」というのには、わざわざそれを取り上げるだけのコンテキストが要るだろう。
- (8) アクセントの置かれる位置により、多義性をもつ可能性もある。例えば、“三十七頁”にアクセントが置かれると、2回でたった30数ページしか編集できなかった、という意味にもとれる可能性がある。  
(参考文献 邵敬敏。1990 〈副詞在句法结构中的语义指向初探〉 p.52~66 《汉语论丛》华东师范大学出版社)
- (9) 注(8)と同じく、アクセントの置かれる位置により、多義性をもつ可能性もある。例えば、“十个人”にアクセントが置かれると、前後の文脈によって、3回でたった10人しか調査できなかった、という意味にもとれる可能性がある。
- (10) インフォーマントによっては例文(9)~(2)を成立可能であるとした。

- ⑪ このタイプは、動作の完了を意味するため、動詞部分に多く結果補語を伴うと思われる。
- ⑫ ?マークは、文が成立するためには副詞との共起が必要であることを示す。以下例⑭まで同じ。
- ⑬ インフォーマントの意見に基づく。
- ⑭ 注⑬に同じ。
- ⑮ インフォーマントによっては、文の成立に副詞が関与しないのは、数詞が“一”の場合だけではないとし、以下の例も成立するとした人もあったが、多くのインフォーマントは副詞との共起を必要とするとした。( ?マークは、文が成立するためには副詞との共起が必要であることを示す。)
- ? 计划两次订好了。  
(計画は2回で取り決まった)
- ? 他们三次除干净了杂草。  
(彼らは3回で雑草をきれいに取り除いた。)
- ? 我几次学会了开车。  
(私は数回で車の運転をマスターした。)
- ⑯ 杉村博文, 1994『中国語文法教室』p. 82 大修館書店
- ⑰ 刘月华 潘文娉 故焱, 1983《实用现代汉语语法》p. 88 外语教学与研究出版社  
(相原茂監訳, 1988『現代中国語文法総覧(上)』p. 122 くろしお出版)
- ⑱ ?マークは、文が成立するためには、後続文が必要であることを表す。以下例文⑲まで同じ。
- ⑲ 例文⑲~⑳が因果関係を、㉑、㉒が補足説明を、㉓~㉔が逆接を意味する文を後続の文として加えている。
- ⑳ 列挙した例文はすべて後続文であるが、必ずしも後続文に限らず、前にくる例もある。例えば、
- 不知道为什么, 今天我几次碰上他。  
(なぜだかわからないが、今日私は何回か彼に会った。)
- しかし“不知道为什么”は、文の冒頭に置かれるのが慣用的であり、その点でこの例は例外的といえるかもしれない。
- 本稿では、前に文をとる場合については触れておらず、今後詳しく検討する必要がある。
- ㉑) <全>: 《1982年全国优秀短篇小说评选获奖作品集》1983. 上海文艺出版社
- ㉒) 注㉑に同じ。
- ㉓) 注㉑に同じ。

(筑波大学大学院)